

守山市民ホール 大規模改修基本計画（概要版）

I はじめに

守山市民文化会館（以下「市民ホール」）は、昭和61年11月の開館以来、音楽や劇場など文化芸術に触れる場として、また式典や各種発表の場として多くの市民に親しまれてきました。一方で建物および各種設備は、経年による老朽化が進み、安全面、利用面での課題を抱えています。

このような状況の中、令和5年度において、市民ホールの現況調査などを実施し、大規模改修後の目指すべき将来像と大規模改修の方向性（基本理念）をまとめました。

この大規模改修後の目指すべき将来像と大規模改修の方向性（基本理念）を踏まえ、今後も文化芸術を振興し、末永く愛され利用される市民ホールとなるため、大規模改修の基本計画を策定するものです。

II これまでの経緯

令和5年度に市民ホールの現況調査を実施し、設備の老朽化や既存不適格の調査を行いました。また、関連法案や計画、市民意見の調査なども行いました。

これらの調査をもとに市民ホールの特徴と問題点を整理し、令和6年3月に「守山市民ホール大規模改修の基本的な考え方について」を取りまとめ、大規模改修に向け、現代のホールに必要な機能や改修後の目指すべき将来像、大規模改修の方向性（基本理念）を定め、工事費は55億円～60億円と想定しました。

III 追加調査・市民意見聴取

令和5年度の現況調査に加え、事業費への影響が大きい屋根と外壁について、さらに詳細に調査を行いました。

現況調査

調査項目	結果概要
銅板屋根	銅板屋根、陸屋根の劣化や浸水、破損の状況を調査
外壁	壁面のタイルの打診調査、引っ張り試験を実施
コンクリート調査	中性化試験、被り厚さ・腐食調査を実施

市民意見聴取

市民ワークショップ

第1回 令和6年6月23日

テーマ「パワーアップしたい機能は何だろう？」

実際に市民ホールをまわってしながら、市民ホールの課題と、それを解決するためにどの機能をパワーアップする必要があるか、ホールを4つのエリアに分けて検討。

第2回 令和6年7月27日

テーマ「改修後にやってみたい、やってほしい事業を考えよう！」

第1回で考えたりリニューアルのアイデアをもとに、リニューアルされた市民ホールでどんなことをやってみたいかを検討。

アンケート

実施時期 令和6年 8月6日～8月18日

実施方法 設問表配布

回答数 259

設問内容 ・守山市民ホールの使い方
・守山市民ホールの貸し出し諸室や共用スペース
・守山市民ホールの良いところ・改善してほしいところ

令和5年度

基礎調査

国の文化芸術関連政策の確認	市民ホールの利用状況調査
県の文化芸術関連政策の確認	利用者等へのヒアリング・アンケート調査による市民意見聴取
守山市の関連政策・計画の確認	オープンハウスによる市民意見聴取
県内の主な文化施設の設置状況調査	市民ホールの修繕履歴調査
周辺施設の状況調査	市民ホールの現況調査

目指すべき将来像

これまで市民ホールでは、大ホールは文化芸術を鑑賞する場として、小ホールや学習室等の諸室は市民の発表や学習の場として着実に実績を積み上げてきており、多様な文化芸術に市民が触れる機会を支援してきました。市民にとっても、文化芸術振興の拠点として認識されています。今後は、これまでの文化振興の拠点としての役割に加え、市民自らが多様な創造活動を発信する場として、さらには、市民が日常的に足を運び交流する場として、末永く愛される施設を目指します。

基本理念

- 現在のホールの良さを引き継いだホール
大ホールの座席数、音響の良さを維持
小ホールは幅広い利用を促進する多機能ホールを検討
- 安全・安心で誰もが使いやすい施設
建築基準に則った安全性の確保。すべての人々が利用しやすい施設へ大規模改修
- 地球環境にやさしい施設
環境負荷の低減により、ランニングコストの削減も実現できるよう配慮
- 多様な市民が、文化芸術活動の練習・発表・創造の場として使える施設
子どもから高齢者まで多様な世代の市民が、自分も作ってみたい、発表してみたいと思える施設
- まちの広場として、開かれ、交流がうまれる施設
イベントや公演がなくても市民がふらっと立ち寄り、交流がうまれる施設を目指す

改修方針

現状復帰+現在基準との整合+一部機能の向上

「守山市民ホール大規模改修の基本的な考え方について」

新たな周辺施設との関係の整理

市民ホール周辺には、守山市民体育館、守山市民球場などの施設がある守山市民運動公園や立命館守山中学校・高等学校があります。

また、市民交流ゾーンには新たに大型複合商業施設が開店し、多くの人が集まるエリアとなります。

市民ホールは、周辺施設と連携し、訪れる人々の交流を促す役割を担う必要があります。さらに、市民交流ゾーンからの新たな人の流れが生まれるため、市民交流ゾーンへ開放され、来訪しやすいイメージを作り出す必要があります。



IV 市民ホールの各エリアの現状、課題と求められる機能

目指すべき将来像や大規模改修の方向性（基本理念）、現況調査や市民意見聴取などを踏まえ、大規模改修を実施するにあたっての各エリアの現状、課題を整理し求められる機能を以下のとおりまとめました。

項目	良い点・課題	求められる機能
大ホールエリア	【良い点】 ・音響性能が良い ・県内の文化施設の中でも大ホールの座席数が多い 【課題点】 ・客席椅子の幅が48cmと狭い ・内装、設備の老朽化 ・特定天井の現行法規を満たしていない	・改修後も県下有数の音響性能を維持 ・客席の座席数維持と快適性向上 ・劣化した舞台設備などの現代的な機能性確保 ・安全性の確保、ユニバーサルデザインの推進
小ホール・展示エリア	【良い点】 ・小ホールは観覧席が収納でき、展示会などでも使用可能 【課題点】 ・小ホールは、音楽利用も多いが音響性能が低い ・小ホールの入口が狭い ・小ホール前の市民ギャラリーが暗く、活かされていない ・ロビーや市民ギャラリーとの連携が無い ・小ホールは、特定天井には該当しないが安全性確保のため対策が必要 ・展示室の照明が暗い ・展示室の内装、可動間仕切りの老朽化 ・展示室は、吹奏楽の大会開催時には練習室の一つとなるが防音機能が無い	・より多目的な市民の創造、発表の場 ・中庭、市民ギャラリーとの連携 ・安全性の確保
共用エリア	【課題点】 ・ロビーが狭く混雑する ・日常的に寛げるようなスペースが無い ・中庭、前庭、市民ギャラリーが活用されていない ・授乳室が設置されていない	・開放的な市民の憩い、くつろぎの場 ・中庭、前庭の活用 ・安全性の確保、ユニバーサルデザインの推進
2階諸室エリア	【課題点】 ・諸室の認知度が低い ・少人数用練習室がない ・気軽に使える部屋やスペースがない	・活動が見え、より身近に感じられる諸室 ・多様な市民の練習・創作の場

V 新たな市民ホールのイメージ

大規模改修の方向性（基本理念）に、今年度実施した現況調査、そしてワークショップでヒアリングした改修後にやってみたい、やってほしい事業を反映し、大規模改修後の新たな市民ホールのイメージを次のように定めます。

大規模改修の方向性（基本理念）	新たな市民ホールのイメージ	改修後にやってみたい、やってほしい事業
1 現在のホールの良さを引き継いだホール	新たな文化的体験を生み、未来へつなぐ市民交流拠点	1 プロのアーティストや楽団などの公演
2 安全・安心で誰もが使いやすい施設		2 市民の発表会、気軽なコンサートの開催
3 地球環境にやさしい施設		3 楽器などの練習、作品づくり、会議への日常利用
4 多様な市民が文化芸術活動の練習・発表・創造の場として使える施設		4 お祭りやマルシェなどのイベント体験
5 まちの広場として開かれ、交流がうまれる施設		5 ロビーでの日常的な交流やくつろぎ

守山市民ホール 大規模改修基本計画（概要版）

VI 改修計画

各施設の改修計画

	(1)大ホールエリア	(2)小ホール・展示エリア	(3)共用エリア	(4)2階諸室エリア	(5)管理諸室
現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> 客席椅子の幅が48cmと狭い 内装、設備の老朽化 車いす席の不足 母子室の快適性 特定天井の現行法規を満たしていない 	<ul style="list-style-type: none"> 展示室の照明が暗い 展示室の内装、可動間仕切りの老朽化 展示室は、吹奏楽の大会開催時には練習室の一つとなるが防音機能が無い 音響性能が低い 小ホールの入口が狭い 小ホール前の市民ギャラリーが暗く活かされていない ロビーや市民ギャラリーとの連携が無い 特定天井には該当しないが安全性確保のため対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ロビーが狭く混雑する 日常的に寛げるようなスペースが無い 雰囲気暗い 中庭、前庭、市民ギャラリーが活用されていない 授乳室が設置されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 諸室の認知度が低い 室名表示がわかりにくい オーケストラのパート練習などができる少人数用練習室がない 少人数用会議室がない 気軽に使える部屋やスペースがない 	<ul style="list-style-type: none"> 事務室の視認性が低い
改修方針	<ul style="list-style-type: none"> 楽屋の内装と設備を更新 舞台床の劣化更新 大ホールの内装の更新 快適な客席環境へ改善 法律に基づいた車いすスペースの増設 ホワイエ内装の更新 母子室の快適性を向上 特定天井の対応 客席照明を更新 	<ul style="list-style-type: none"> 劣化した舞台機構の制御盤・操作盤を更新 舞台機構の一部電動化を検討 舞台照明設備の全体的なシステムを更新 舞台音響設備の全体的なシステムを更新 可動間仕切り、照明設備を更新 共用エリアとの一体感、連続性を確保しつつ、防音性を一部向上 音響性能を向上 多様な用途で使用できるよう、照明設備を整備 不使用の可動間仕切り撤去 市民ギャラリーやロビーとオープンに一体利用できるよう整備 天井の安全性を向上 電動可動椅子を更新 客席照明のLED化 劣化した舞台機構の制御盤・操作盤を更新 舞台機構の一部電動化 舞台照明設備の全体的なシステムを更新 舞台音響設備の全体的なシステムを更新 	<ul style="list-style-type: none"> 中庭の屋内化 イベント対応用の電源設備の整備 ロビーの一部として利用できる計画を検討 各種催事対応用の電源設備の検討 開かれ、集いやすい空間へ 日よけ設備の維持検討 ロビー・エントランスの整備 開放的なエントランスへ 吹き抜け天井の安全性向上 ユニバーサルデザイン推進 授乳室の整備(場所未定) 	<ul style="list-style-type: none"> 内装更新 開放的な空間を目指す 照明設備を更新、明るい雰囲気を目指す 各諸室の間取りの変更を検討 1階との繋がり、一体感を目指す 調理実習室と和室の一部を廃止し、スタジオや交流スペースを整備 防音化等の整備を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 来館者が認知しやすく、また来館者対応をしやすいよう、壁やカウンターの位置の変更を検討

VII 大規模改修に伴う休館中の業務・事業

大規模改修に伴う休館中においても、問い合わせへの対応、再開館時に向けた受付、楽器などの改修後も使用する備品の保守点検および維持管理などの業務が必要になります。また、休館中も文化に触れる機会が大幅に減少することがないよう文化事業の継続に取り組む必要があります。

VIII 休館中および大規模改修後の管理運営に関する方針

改修後の市民ホールが末永く市民に愛され、文化振興の拠点としての役割に加え、子どもから高齢者まで多様な市民が気軽に使え、また、イベントが無い日でもふらっと立ち寄り市民同士の交流や学び、情報収集の場となるような施設となるため、事業や施設管理、広報宣伝の方針や運営主体、収支の考え方を整理します。

IX 大規模改修工事の事業手法

従来方式、DB方式、ECI方式の3つの方式の中から、市の意向反映や、設計・建設企業の入札参加可能性などを勘案すると「従来方式」が適していると考えられます。

項目	従来方式		基本設計先行型DB方式		ECI方式	
	市側設計者	施工者 施工側 設計者	市側設計者	施工者 施工側 設計者	市側設計者	施工者 施工側 設計者
基本設計	設計	—	設計	—	設計	—
実施設計	設計	—	意図伝達	設計	設計	コスト調整
施工段階	意図伝達	施工	意図伝達	監理	意図伝達	施工
発注者の意向反映	○	○	△	△	○	○
地元業者の参画	○	○	△	△	○	△
設計責任の所在	○	○	△	△	○	○
建設業者のノウハウ活用によるコスト・工期のメリット	△	△	△	△	△	△
入札リスク	○	○	△	△	△	△
価格の不一致	△	△	△	△	△	△
総合評価	○	○	△	△	△	△

X 想定事業費およびランニングコスト

想定工事費は約60億円、想定事業費は約67億円を見込んでいます。ランニングコストは光熱水費の増加、人件費の増加が考えられます。他市事例においても、改修後1・2割程度の増加がみられます。

XI 事業スケジュール

基本計画の時点において想定する今後の整備スケジュールは次のように想定します。

